



石川 宜介

『鉱石の道』 明治の鑄鉄橋

2015年 2月より、生野鉱山と飾磨の港をつないだ明治の産業道路『銀の馬車道』のことを書いて来ました。今回は、明延（あけのべ）鉱山・神子畑（みこぼた）鉱山の鉱石を生野鉱山まで運んだ『鉱石の道』を数回取り上げます。最初は『明治の鑄鉄橋』です。

神子畑から生野までの道には5橋架けられました。生野から南に降り姫路へ向かった『銀の馬車道』では木橋でしたが、山深く環境の厳しいここでは鑄鉄橋が使われました。当時日本にはその技術がなく、イギリスから鑄鉄の部品が運ばれ現地で組み立てられました。現存するのは、神子畑と羽瀧の2橋です。



神子畑鑄鉄橋

起点より	名称	建設地	構造	橋長	現状
1	神子畑鑄鉄橋	神子畑	一連アーチ型鑄鉄橋	15.997 m	解体復元
2	吊橋	神子畑	吊橋 型鑄鉄橋	不明	流出
3	羽瀧鑄鉄橋	羽瀧	二連アーチ型鑄鉄橋	18.275 m	解体移築
4	金木鑄鉄橋	円山	二連アーチ型鑄鉄橋	約 9 m	撤去
5	無名橋	小田和	アーチ吊下型鑄鉄橋	約 4 m	撤去

明延鉱山の見学機会に恵まれた2015年10月、神子畑と羽瀧鑄鉄橋の写真を撮ってきました。神子畑は全く元の位置にあり、解体整備し復元されています。橋の袂には小さな公園がしつらえられ記念碑と説明板が設置、駐車場も設けられています。ここに車を止め写真を撮りました。その後、河原に降りて橋の下まで歩き入念に上を見上げましたが、本に書いてあった『Glasgow』の刻印を見つけることは出来ませんでした。市川下流に住む私にとって、この小さな河原の石は色とりどりで楽しいもの、少し拾って持ち帰りました。

羽瀧鑄鉄橋は播但有料道路の朝来出口を出て、神子畑とは反対の東に向けて進み、右折して県道 429号線を生野に向けて少し南下、道ばたの公園に移築されています。道路の標識に気をつけていないと見過ごしてしまいます。この橋は「羽瀧のめがね橋」の愛称をもつ鑄鉄製二連の美しい橋です。明治20年に神子畑鑄鉄橋と同時に架橋されたものです。

明治22年に洪水のため流され、その時に修復されました。以後、通学路や生活道路として使われていました。昭和46年頃に橋床と手すりの補修が行われ、平成2年の19号台風の災害で田路川の川幅が拡張されたため、平成7年6月に鉱山道路から遠くない現在の場所に当初架橋の姿に復元、移築されました。石積等も、移築前のそのままの状態での復元されており、基礎の石組みといい、頑丈な構造といい、明治初年のものらしい重厚さがあります。



羽瀧鑄鉄橋



羽瀧鑄鉄橋



鉱石の道
 産・業・遺・産

明延・神子畑・生野



何でもお気軽にお尋ねください！！

今年も挑戦します。ご支援よろしくお願ひします。